

5月13日（金）

おはようございます。

高校一年生は昨日まで高野山修養行事でした。密にならないように気をつけながら、先生方も一生懸命に指導していただき、生徒諸君も非常にまじめに取り組んでくれました。とてもいい行事になったと感じました。

高野山の管長猥下から、一班から三班まで三回にわたって直接、「菩薩十善の戒」を授けていただきました。次の中学一年生の修養行事にも出ていただくことになっており、大変に有難いことだと思っております。

菩薩十善の戒の中の、菩薩思想というのは、世界史の教科書とか、用語集にも出ており、そこでは利他のことを大切にして、衆生を救済する思想だと書かれてあります。特に利他に重点がおかれてあると書いてあるわけです。それに対して小乗仏教（上座部仏教）においては、自らの悟りを求めることが中心であると書かれてある。十善の戒めとは、「不両舌」いわゆる二枚舌を使って仲間割れを起こしてはならないとか、嘘をついてはならないとか、人のものを盗んではならないとか、殺生してはならないというような十の戒めが説かれてあるわけですが、これはどうも菩薩思想というよりは、小乗仏教的だなと実は思っていたのです。もちろん大乘仏教でも、十善戒を大事にはするのですが、どうして「菩薩十善の戒」という言い方をするのだろうと前々から疑問に思っていたのです。

それで、先日ドラマ法王のお話を聞いていたら、小乗仏教（上座部仏教）の十善戒の守り方と、大乘仏教の十善戒の守り方は違うのだと言われていました。簡単に言えば、小乗仏教では人に迷惑をかけないという感じで、大乘仏教では、人のお役に立とうという感じなのです。人の悪口を言わないとか、嘘をつかないとか、これはどちらかと言うと、人に迷惑をかけないということが基準だという感じがしていたのだけれども、法王様によれば、このように戒めを守って悟り（解脱）を得ていこうというのが小乗仏教で、大乘仏教では、菩提心つまり本物の親切心である慈悲のところが本当に備わってきたら、結果として自然に嘘をつかないようになるし、二人の仲を裂こうともしないようになる。言い換えると、慈悲の気持ちが強くなってくるので、行動として十善戒を守るようになるということだと説明されています。「はあそういうことなんだ」と自分なりに納得していたのです。

しかし、昨日の管長猥下のお諭しのなかで、十の戒めの根底には慈悲の思想が流れているとおっしゃいました。そのとき、なるほど

考え方の根底は一緒なのだなと思いました。このお話を聞きながら、私は感激していました。要するに同じ十善戒でも、小乗仏教と大乘仏教とは違って、十の戒めを守ることで徳を積み解脱を求める道と、自分のなかに菩提心つまり、利他の気持ちや親切心が本来に育ってきたら、二人の仲をわざわざ裂いたりしなくなるし、ひどいことをしたりすることもしなくなるという道。つまり慈悲のころを自分のなかで育てていくことが、自然と十善戒を守ることになる、これが大乘仏教の考え方で、そういう意味で菩薩十善の教えということなのだ、昨日管長猯下のお話を聞きながら、ひとり納得をしておりました。

皆さんもこれを参考にして、ぜひ親切心を育てていってください。中学一年生以外は、「菩薩十善の戒」を授けていただいているわけですから実行できるように心がけてもらいたいと思います。

今朝の話はこれで終わります。

学校長